

『鈍行列車の車窓から』

025 芝浦工業大学附属中学高等学校

友人と別れ、長岡から上越線水上行きの列車に揺られていた。いつもなら新幹線であつという間だが、今日はあえて鈍行で辿りたかった。街並みが、いつもよりも穏やかに後方に過ぎ去っていく。

「また、この地へ戻ってきたい。」

そう思わせてくれた。気づけば、心地良い揺れと旅の疲れが私を眠りの世界に誘っていた。

ハッ、と目を覚ますと、列車は緑深い山中を縫うように進んでいた。眼下には清流が流れている。ゆっくりと流れる車窓を味わえる、それが鈍行列車の醍醐味だろう。

「まもなく湯檜曽」とアナウンスが流れ、列車は静かに駅に滑り込んだ。初めて聞く駅名だ。降りてみたい衝動に駆られたが、次の列車がいつなのか分からず、今回は見送ることにした。こうして今日もまた、再び訪れたい場所がひとつ、心に刻まれた。車窓をぼんやりと眺めていると、いつの間にか列車は終点の水上駅に到着した。目的地の東京まで、まだまだ旅路は続く。

全国高等学校鉄道模型コンテスト2025 旅する江戸川乱歩賞